

thou shalt not kill

汝殺すなかれ

永澤俊矢

平田満

石堂夏央

あたしたち、ふつうだよ。



永澤俊矢

平田満

石堂夏央

入江達也

友居達也

神崎正人

山崎正人

thou shalt not kill

美大くずれの若き殺し屋とその助手の女の子、そして偶然彼らと出会った平凡なサラリーマン。仲間となった3人が殺しのビジネスを重ねるうちに、いつしか不思議な交流が始まるが……。

『バナナシュート裁判』『曖昧・Me』で注目を集めた俊英・佐藤闕介監督の第三作は、意外にもハードボイルド風アクション……。



登場する殺し屋たちは、町ですれ違ったり、酒場で隣合わせに座ったりしてもそれと分からない、ごく普通の中年男や若者たちばかり。まるでミッキー・スピレーンの世界にロアルド・ダールのキャラクターたちが紛れ込んだかのような、いわば“あなたに似た人”が繰り広げる、奇妙な味のアクションだ。

これは日常の風景を数センチばかり横にズラした物語。

そう、これは殺し屋という職業を選んだ人々をめぐる、アクションの形をとったメルヘンであり、ハードボイルド調の寓話なのだ。レオス・カラックス“汚れた血”、ウィム・ヴェンダース“アメリカの友人”、ルネ・クレマン“狼は天使の匂い”といった系譜に連なる作品が今、ここに誕生した。

主演は、アントニオ・バンデラスを思わせる野性味とナイーブな個性が光る永澤俊矢。ヒロインには『オートバイ少女』で鮮烈なデビューを飾り、『119』『シークレットワルツ』などで個性派女優としてのキャリアを着実に重ねている石堂夏央。そして作品の要となる役を、『蒲田行進曲』『君を忘れない』の演技派平田満が絶妙に表現している。

カラー/1時間37分/1996年作品

◎夢見がちでもなければ現実的でもない、熱くもなければ冷静でもない。「普通の呼吸の中にチクリと刺さる針」ですね (森若香織/ミュージシャン)

◎人生に退屈しているようで、生意気なようで、不安げで淋しげな石堂夏央。僕はいつの間にか、シャルロット・ゲンズブールのイメージを重ねていた。—SAPIO・世紀末の奇才たち より— (永瀧達治/音楽評論家)

◎制御された演出の中で静かにキレていく主人公たち。——この美意識はカッコイイ!! (フリーター/23歳・男)

◎的確なさじかげんの“リアル”とユニークなキャラクター陣が今までにない奇妙な感覚に私たちを落し入れる (大学生/22歳・女)

◎感動的なラスト。季節が冬で、殺し屋の話なのに、なぜか映画から温かい空気が感じられた (高校生/17歳・女)

11月9日(土)より(22日(金)マテ)レイトショー!

●PM8:50より上映(終映PM10:30)。ただし、毎日曜日は休映致します。

※特別鑑賞券¥1,300(当日一般¥1,600/学生¥1,400)発売中!

●劇場窓口、エストIPG、チケットセゾン、チケットぴあ、関西プレイガイド協会にてお求め下さい。

梅田ロフトB1

06(359)1080

テアトル梅田

※11/9(土・初日)舞台挨拶

永澤 俊矢

石堂 夏央